

(143) 福島県南会津の黒沢鉱山

参考文献(1)に、この鉱山について、詳細な解説が行われている。この鉱山は主に石膏、黄鉱、黒鉱を産出していた。鉱山の位置図、地質図、鉱山全体の配置図も添付されている。従って、現地の訪問・探査は非常に容易である。文献は50年以上前に出版されたものであるが、位置図などは、現在の地形図と良く対照できる。さらには、現在では、パソコン上で、Google earthを利用しての地表の衛星写真も利用することができる。これにより、現在、現地には「荒れ地」が幾つかあり、ズリ跡らしいことが視認できた。更に、現地は市街地に隣接していたので、廃鉱山跡には珍しくスマートホンの通信が可能であった。GPSソフトを利用して、現地での位置がリアルタイムで確認することができた。

現地への経路は次の通りである。289号を東から進んできたら、只見川に達する直ぐ手前で左折し、伊南川に架かっている黒川橋を渡る。そして、少し先のT字路を左折し、北へと進んでいく。道は北に凡そまっすぐに伸びている。適当な所で車を駐車させる。探査時は、舗装道路終了付近で駐車をしたが、オフロード車ならば、もう少し先まで進めよう。が、先を確認した後、車を進めるようにした方が無難である。後は徒歩である。

2015年5月探査

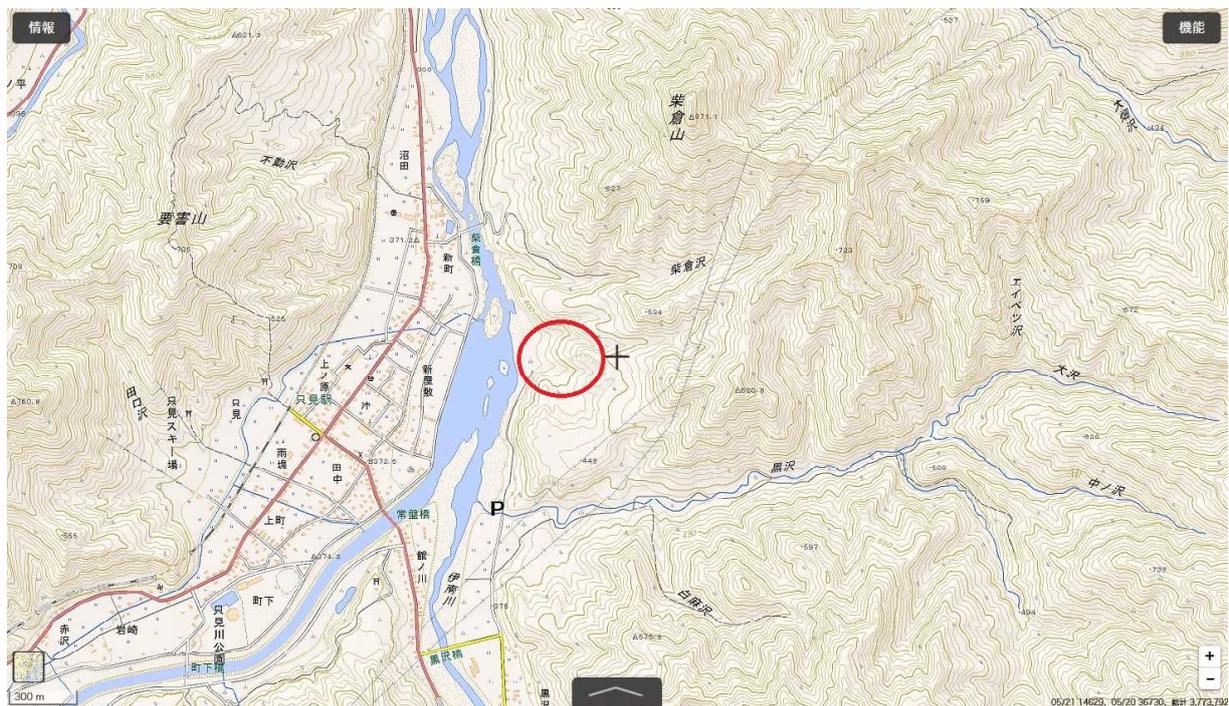


図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。赤矢印は経路の案内記号。赤丸が鉱山跡。現地は広い原野の如くである。現地の対岸は市街地である。資料によれば、川の下にも鉱床があり、採掘をしたようである。Pは駐車場。林道は北に延びている。が、補修は全く行われた様子がなく、先の方では崩れ箇所があり、迂回をしなければならないかもしれない。

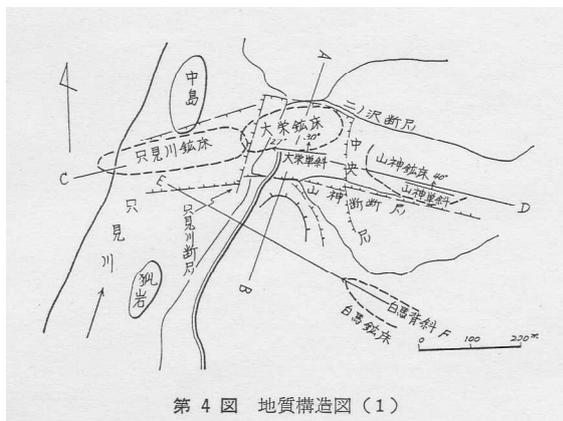
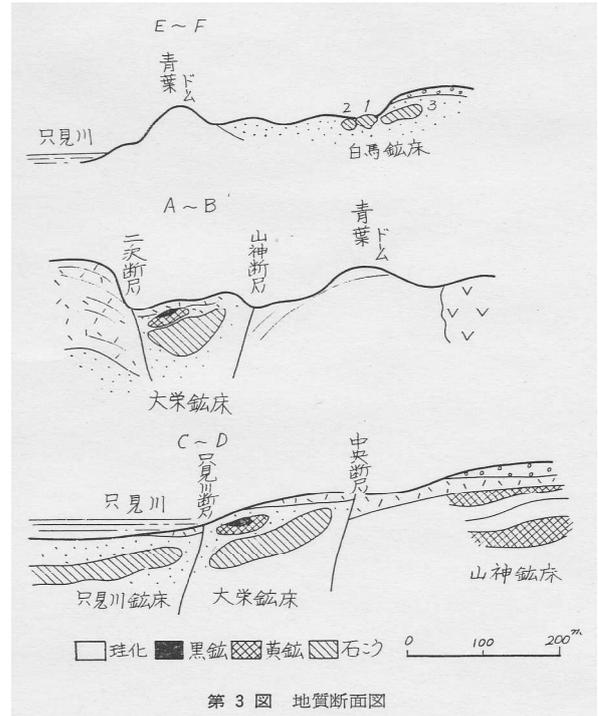
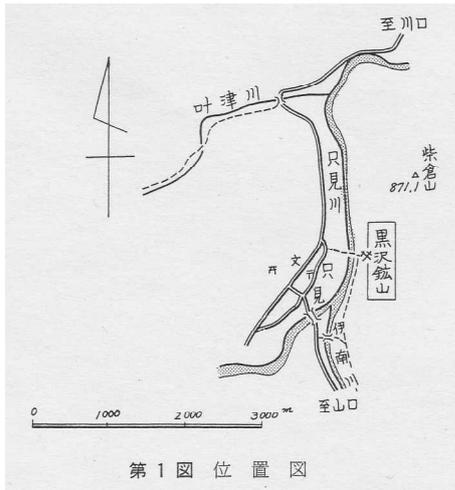


図2 参考文献(1)より。「第1図」から、鉱山位置の確定は容易である。「第4図」は次の図3と良く対照できよう。そうすると、「第3図」も理解が進むと思う。



図3 Google earthより。赤丸で示した3箇所にズリ跡を確認した。図2中の複写図と対照できよう。現地は葎が生い茂るので、切り払いの道具があった方がよい。広い河床は、時々大きく変化する。

鉦山跡写真



写真1 林道への入口から見る。



写真2 杉林の中の林道を通り抜けると広い葦の原野が現れる。只見川は生い茂った木々の葉で隠れている。この写真は葦の高さが低い時であった。葦の成長は早く、背も高くなる。



写真3 葦の原野の山側には広いズリ跡が広がっている。石膏、黄鉄鉦は良く見つかる。地質構造図から判断すると、大栄鉦床跡らしい。



写真4 小さい沢が流れている。粘土層を掘り出すと、大きな黄銅鉦の塊がでることもある。



写真5。大栄鉱床跡のズリで、只見川を背にして、右側上方にある白馬鉱床跡のズリ。沢沿いに、辛くも道が残っている。それを登り上がる。

鉱物写真

特になし

参考文献

(1)「日本の鉱床総覧（上巻）」、日本鉱業協会、1965年。